

平成30年7月豪雨被災事業所

株式会社TEORI (1月9日訪問)

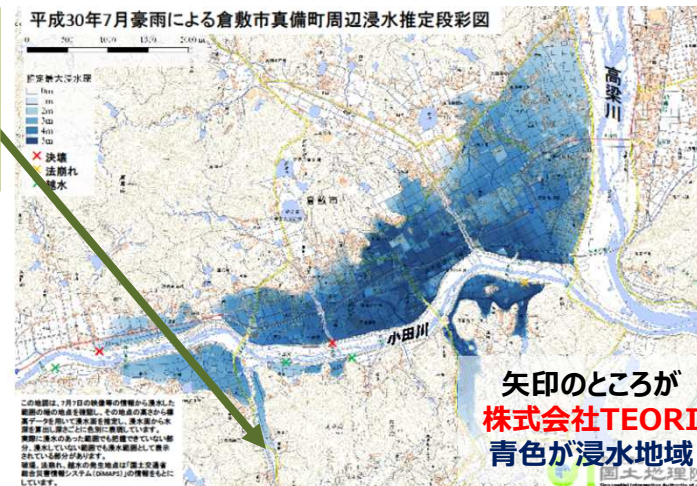
【所在地】岡山県倉敷市真備町服部1807

【事業内容】竹集成材を用いた家具インテリア雑貨の製造販売
木材及び竹集成材を用いた製品の製造

【従業員数】24名 【資本金】1,000万 【代表者】代表取締役社長 中山正明



創業30年の節目の年に被災された「株式会社TEORI」。被災した週明けには事業継続を決意され、現在は被災以前の状態にまで復旧されています。被災直後の状況、その後現在までの復旧に向けた取組について、中山社長にお話をうかがいました。



被災状況は？	従業員の被災は？	被災からこれまでの道のり	株式会社TEORIを訪問して
<p>真谷川の氾濫により1階の天井近くまで浸水し、本社及びショールームが被害を受けた。堤防の決壊により水位が下がったことで停めていたトラックが100Mほど流され驚いた。修理して使える機械が僅かにあったが、ほとんどの機械は使えなくなったため新規購入し、全て揃ったのは12月である。一階及びショールームの商品は全て廃棄となった。被害総額は約2億円になる。</p>	<p>従業員の自宅のうち、3軒が全壊、2軒が半壊となった。従業員には「給料は保証するから、まずは自分の家のことを優先するように」と伝えた。被災従業員は9月から復帰している。また、被災以降の退職者はおらず、これから新規入社予定が2名いる。</p>	<p>被災3日後の週明けから従業員の8割が集まり、片付け等の作業を開始した。まず行ったのは得意先・仕入れ先への連絡。それから被害を受けた機械の仕分けを行い、得意先に納品日を伝えられるよう復旧までの稼働計画を立てた。従業員には「来られるときに出勤してくれればよい」と伝え、休憩を意識的にとるようにした。オープンを抑えた九州のホテルをはじめ、多くの取引先が「納品を待つ」と対応した上、復旧作業の応援にも駆けつけてくれたことが忘れられない。災害の2週間後の内装工事の際には、作業場の床の塗装を気持ちを込め、社員みんなで行った。</p>	<p>「社員を安心させたい」という気持ちから事業継続を早くに決断され、また得意先から多くの応援が駆けつけたことから、従業員を大切に考えていच्छることで、取引先と強い信頼関係を築かれていることが伝わってきました。「被災を竹の節、つまり成長の基礎と考え、気持ちを切り替えて今は焦らずじっくり基礎を固めるとき」これは新年の挨拶で、従業員に向けられた社長の言葉です。竹集成材を扱うTEORIならではの発想で、これからは竹を使った肥料の製造など循環型社会に向けた取り組みを進めて行くそう。「被災地真備」から、美しい「竹のまち真備」へと戻るのも近いはず。</p>



豪雨後の外観(7/8撮影)



流されたトラック



被災後の作業場内



社員みんなですった床